A Challenging Job

明日へ 未来へ つながる農業㉗

ゆるく楽しく高め合う若手ファーマーたち

かたつむりの会（飯田下伊那）

飯田下伊那の若手農業者ら63人が参加する「かたつむりの会」は、勉強会や交流を通じて自分たちの農業を盛り上げようと活動しています。会の名称には「自分の家を背負ってゆっくり進む」という、農業後継者としての意欲が込められています。会員の年齢は20～50代と幅広く、栽培品目も多種多様。毎月の定例会で会員の意見を聞きながら活動を決めていく、自由で柔軟な気風が特長です。

活動の柱の一つが直売活動を通じた消費者との交流です。地元だけでなく麻布十番商店街（東京都港区）や中京方面などにも出張し、会員自慢の新鮮な農産物を販売。消費者とじかに接することでニーズをつかみ、農業を続ける励みともなっています。会員相互のほ場見学会や先進地への視察研修会なども積極的に開催。座学では「がっつり農業経営講座」と題し、経営コンサルタントを講師に招いて農業経営のあり方を学んでいます。

2005年からは、JAみなみ信州青年部との共催で下伊那農業高校の生徒たちを対象とした「郷土料理コンテスト」を開催。11年には優秀作品が大手コンビニエンスストアのお弁当として商品化され話題となりました。同校では会員が出前授業も行っています。

学び合いが大きな実りに

本年度会長の田中雅秀さん（33、飯田市上郷）は04年に入会。会の事務局を務める下伊那農業改良普及センターの担当者に「ゆるくて楽しい会だから」と誘われたのがきっかけでした。

田中さんは農業系の大学院を卒業後、キュウリ農家の実家を継いでこの道へ。仲間や先進地の取り組みを学べるこの会は、田中さんにとって貴重な場になりました。「品目は違っても生き物相手であることは同じ。この会ならいろんなことを広く勉強できます」と田中さん。〝ゆるくて楽しい〟の言葉通り、田中さんも食材を持ち寄り、料理を手作りするワインパーティーを企画するなどして仲間とのつながりを深めてきました。

田中さんが生産する「マー君のミネラルキュウリ」は、中央アルプスからの地下水と完熟有機肥料で栽培しています。みずみずしくて歯切れがよく、今年5月に開かれた第14回「野菜ソムリエサミット」で購入評価部門の大賞を受賞、食味部門でも4位に入賞しました。会でもたびたび田中さんの農園を見学しており、苗の生育の良さ、病気の少なさに注目が集まりました。「ぼくも教えられることはどんどん教えています。教えたり教わったり、それがこの会のいいところ」と田中さん。

会では今秋、東京都品川区の商店街で直売活動を予定しています。これはリニア中央新幹線の沿線都市との交流を狙った企画。「会員同士だけでなく、ほかの団体とも化学反応を引き起こしながら、これからの地域農業を盛り上げていきたいですね」と、田中さんは抱負を語ってくれました。

▶長野県が麻布十番商店街で開催している直売イベントには毎年出店。「今年はいつ来るの？」とファンから問い合わせが来ることも

◀下伊那農業高校で出前授業をする田中会長。農業分野に進む高校生たちに業界の先輩としてアドバイスを送りました

大学生とタッグを組んで

かたつむりの会は、2010年から愛知淑徳大学ビジネス学科のゼミグループ「Vege GaGa（ベジーガガ）」の学生たちとともに、スイーツ開発や農業体験会などを実施しています。スイーツ開発では、会が規格外トマトなどの食材を提供、学生たちがそれを使ってカップケーキやクッキーなどを開発して愛知県内の店舗やイベントで販売しています。

今年は会で飯田市龍江と同市松尾に合計約18㌃の遊休農地を借り、スイートコーンの栽培を行いました。5月18・19日に学生18人を迎え、一緒に苗の定植作業を行いました。7月下旬に収穫したスイートコーンはすべて名古屋の業者が買い取ってくれました。

学生にとっては農業を深く学ぶ貴重な機会、一方の会員たちにとって学生との交流は大きな刺激です。これからもどんなコラボレーションが実るのか楽しみです。

◀2010年に行われた農業体験。会員のトマト農園で摘み取りを行いました

記事に関する問い合わせ
●飯田市農業振興センター ☎0265・21・3217